

フレデリック・スタールと四国遍路関係資料

〈静岡県富士山世界遺産センター 学芸課 教授 大高 康正〉

令和5年度、静岡県富士山世界遺産センターにアメリカの人類学者フレデリック・スタールの助手兼通訳をつとめた九十九黄人（豊勝）旧蔵の富士山関係資料について、子息の九十九弓彦氏より御寄贈をいただきました。資料は一枚物とした手紙や千社札などの印刷物、冊子体の書籍類、スタール自筆の墨跡や富士講の教義関係の掛軸、卷子類、工芸品、富士講の布製マネキ類など、約 3700 点に及ぶ大変貴重な資料群です。この寄贈を機会として、令和6年3月には雄山閣より『富士山学』第4号を刊行し、「お札博士フレデリック・スタールと日本文化」と題した特集を企画しました。スタール、九十九黄人、東洋民俗博物館、千社札について取り上げていますので、是非、御一読ください。

【フレデリック・スタール：1858 年 9 月 2 日～1933 年 8 月 14 日】

明治 37 年（1904）から昭和 8 年（1933）まで 16 回来日。1922 年にはシカゴ大学で富士山に関する展示会を開催、自らも 5 回富士山へ登山しています。静岡県小山町の須走口との関係が深く、死後に慰霊碑が建てられ、遺言により遺骨も埋葬されています。スタールの日本研究は幅広く、特に納札に関して自分の名をもじった「寿多有」と刷った千社札を多数作成し、「お札博士」と自称し、また周囲からもそう呼ばれていたようです。

【九十九黄人：1894 年 7 月 17 日～1998 年 2 月 10 日】

昭和 3 年（1928）に奈良県奈良市あやめ池北に東洋民俗博物館を開館し、初代館長となります。本名は豊勝ですが、40 代頃から黄人という雅号を名乗っています。早稲田大学在学中からスタールの調査に同行し、そのコレクションの一部を引き継ぎ、世界中の貴重な資料の収集をスタールの死後も続けていきます。

I フレデリック・スタールの収集資料が現在もまとめて残されている機関

- (1) シカゴ大学：彼が所属していた大学研究機関
- (2) オレゴン大学図書館：スタールの妹が所持していた彼の遺品の千社札コレクション
- (3) 東洋民俗博物館（奈良県奈良市あやめ池北）：我楽他宗関連資料の一部は個人所蔵として館外へ出ており、富士山関係資料については静岡県富士山世界遺産センターへ寄贈されました。その他は現在も東洋民俗博物館に所蔵されています。

フレデリック・スタールは、四国八十八カ所巡拝、いわゆる「お遍路さん（四国遍路）」も行っています。スタールの四国遍路は大正 6 年（1917）、大正 10 年（1920）に行われているようです。第 53



番札所の円明寺で慶安 3 年(1650)の銅板納札を確認したことが知られていますが、現在も彼が四国遍路をどのように行っていたのかは不明な点が多いです。スタールの収集していた資料は、アメリカ、日本国内において複数箇所に分散して残っていますが、その多くを継承する東洋民俗博物館の資料群は、これまで十分に研究対象として取り上げられてきませんでした。

スタールが四国遍路の際に収集した資料は、現在も東洋民俗博物館の収蔵資料の中に含まれている可能性は高いと思いますが、当センターへ寄贈いただいた資料にも数点スタールの四国遍路に関する資料が含まれていました。そこで、当センターへの資料寄贈を担当した御縁から、このコラムでスタール関係資料の情報提供を行うことで、今後の四国遍路に係る研究の進展を期待したいと思います。

Ⅱ 静岡県富士山世界遺産センター所蔵(九十九コレクション)の四国遍路関係資料

- (1) マネキ:フレデリック・スタールと池田重太郎とによる大正 10 年(1921)2月の四国遍路の際に作成されたものです。
- (2) 白衣:大正 10 年にスタールが実施した四国八十八ヶ所巡拝の際に同行した大阪の池田重太郎が着用した白衣。四国遍路寺院の御朱印が捺^おされています。
- (3) 写真:スタールともう一名白衣を着た人物が池田重太郎になるのでしょうか。そうであれば、この写真は、大正 10 年の四国遍路の際に撮影した写真という可能性があります。池田重太郎は、スタールの通訳をつとめた人物で、彼の通訳としては、前橋半山(半兵衛)とともによく知られています。この時は「池田」姓ですが後に「浦」姓を名乗っています。
- (4) 新聞記事切り抜き:新聞記事の切り抜きを集めた中に、四国遍路に関する記事が含まれていました。この切り抜きの該当新聞は、おそらく朝日新聞と思われます。記事の切り抜きには、九十九^{つくも}黄人^{おうじん}が記入したと考えられる赤字注記の年月日が入っています。黄人は、記事が掲載された日を赤字注記していたものと思われ、この記事はスタールによる大正 6 年の最初の四国遍路の記事と考えられます。
 - ①「昨夜は船で 博士の四国渡り」1917 年 3 月 3 日(赤字注記)
 - ②「伊予路のお札博士」1917 年 3 月 7 日(赤字注記)
 - ③「高野詣 徳島から新和歌浦を経て」1917 年 3 月 14 日(鉛筆書注記)

【参考文献】

- ・山口昌男『内田魯庵山脈』(晶文社、2001 年)
- ・フレデリック・スタール『お札行脚』(国書刊行会、2007 年)
- ・デイビット・モートン「フレデリック・スタール(お札博士)と四国遍路」(愛媛大学、2007 年)
- ・九十九弓彦『東洋民俗博物館あれこれ』(東洋民俗博物館、2007 年)
- ・藤野滋『我楽他宗宗員列伝』私家版(近江玩具研究会、2007 年)
- ・『我楽他宗一民藝とモダンデザイナーの集まり』(多摩美術大学芸術人類学研究所、2021 年)
- ・静岡県富士山世界遺産センター編『富士山学』第 4 号(雄山閣、2024 年)





(1) マネキ



(3) 写真



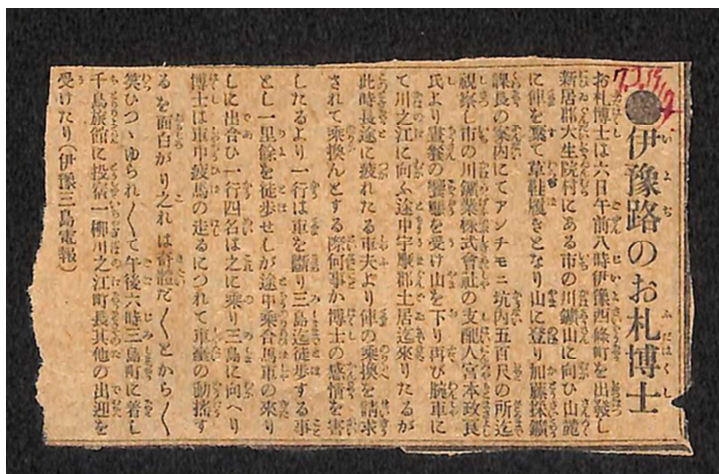
(2) 白衣



(4)新聞切り抜き



①「昨夜は船で 博士の四国渡り」1917年3月3日(赤字注記)



②「伊予路のお札博士」1917年3月7日(赤字注記)



③「高野詣 徳島から新和歌浦を経て」1917年3月14日(鉛筆書注記)